会　　議　　録

会議名		令和８年度　第３回小山地区まちづくり会議		
事務局 （担当課）		中央区役所中央６地区まちづくりセンター 電話０４２－７０７－７０４９（直通）		
開催日時		令和８年１０月６日（火）　１９時００分～２０時１５分		
開催場所		小山公民館　大会議室		
出席者	委　員	１９人（別紙１のとおり）		
	その他	０人		
	事務局等	３人（中央６地区まちづくりセンター所長ほか２人）		
公開の可否		■可　□不可　□一部不可	傍聴者数	１人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		１　開　会 ２　議　題 （１）小山地区支援案（災害時における安否確認）の検討 ３　報告事項 （１）次期総合計画の意見聴取について （２）地域活性化事業交付金　事業まとめ誌について ４　閉　会		

議　　事　　録

主な内容は次のとおり。

１　開　会

入谷会長のあいさつにより開会した。

２　議　題

（１）小山地区支援案（災害時における安否確認）の検討

入谷会長から検討内容について概要を説明し、事務局から詳細について資料に基づき説明した後、３グループに分かれ、想定される被災時（別紙２）に安否確認を行う際の課題について検討した。

＜各グループの発表内容＞

別紙３「グループワーク検討結果」のとおり

＜質疑応答＞

特になし。

＜結果＞

・ 本日の意見を参考として、まずはモデル地区を選定し、災害時を想定した「安否確認」を実施する。
・ モデル地区は、すすきの自治会とすすきの向陽自治会を想定している。
・ モデル地区において事業をするなかで、さらなる課題の洗い出し等を行っていく。

３　報告事項

（１）次期総合計画の意見聴取について

事務局から資料に沿い、次の事項について説明した。

・ 意見聴取方法の変更
・ 意見の連携
・ その他の意見聴取方法
・ 今後の予定

＜主な意見・質疑＞

特になし。

（２）地域活性化事業交付金　事業まとめ誌について

事務局から資料について説明した。

＜主な意見・質疑＞

特になし。

4　閉　会

星副会長のあいさつにより閉会した。

以　上

【別紙1】

小山地区まちづくり会議委員出欠席名簿

令和８年１０月６日開催

	氏　　名	所　属　等	備　　考	出欠席
1	入谷　利郎	小山地区自治会連合会	会　長	○
2	関口　邦夫	宮下自治会		○
3	徳永　三朗	すすきの自治会		欠席
4	亀田　浩代	すすきの向陽自治会		○
5	若井　一朗	向陽町自治会		○
6	丸山　和加恵	久保原自治会		○
7	中島　幸英	自治会法人　氷川町自治会		○
8	岩崎　義之	相模原駅前自治会		○
9	阿部　利和	東第一自治会		○
10	佐藤　薫	丸山自治会		○
11	星　清次	小山公民館	副会長	○
12	川口　久美	小山公民館		○
13	宍戸　佳子	小山公民館利用者懇談会		○
14	遠藤　秀雄	小山地区社会福祉協議会	副会長	○
15	江口　基明	小山地区社会福祉協議会		○
16	小池　美恵子	小山地区民生委員児童委員協議会		○
17	米山　恭子	青少年健全育成協議会		○
18	宮﨑　良雄	防犯指導員		○
19	加藤　秀子	相模原交通安全協会小山支部		欠席
20	中村　悠一	向陽小学校ＰＴＡ		欠席
21	藤原　幸恵	小山中学校ＰＴＡ		○
22	松橋　真奈美	小山地域包括支援センター		○
23		学識経験者		

【別紙2】

今回のテーマ検討における被災想定等

・平日の午前１１時、市内で震度６強の地震が発生した。
・一部で家屋やブロック塀等の倒壊が発生している。
・ライフライン（電気・ガス・水道・電話等）は全て使用できない。

「災害時に誰一人取り残さない小山地区」
を実現するための安否確認

【別紙3】グループワーク検討結果 （令和8年10月6日（火） 第3回小山地区まちづくり会議）

❖エリア単位（例：自治会の班）で安否確認を行う際の課題について

	課題	前回のグループワークでの意見等	★意見・課題等		
			A グループ	B グループ	C グループ
1	安否確認を行ったことが分かるようにする方法	・ マグネットシートをドアに貼る ・ ドアに印を付ける ・ シールを貼る	・ 鉄製のドアにはマグネットシールを貼る。 ・ 養生テープに時間を書いて無事かどうか確認する。 ・ 在宅か不在か不明の場合、どうすればいいのか。 ・ 近所であれば普段の様子が分かるはず。 ・ マンションには管理組合があるため安否確認がしやすい。 ・ 戸建てはどこで集約すればいいのか。 ・ 班長が巡回するのはどうか。 ・ 安否確認は班単位がいいのではないか。ただし住人が多く、班員数が多い場合は、10 世帯程度に細分化した方が良い。	・ マグネットシールを使用する場合は、自宅の玄関に貼っておくのはどうか。またマグネットシールは、自治会内で役職のある人がまとめて保管しておく方が良いのではないか。 ・ 一番簡単なのはシールだと思うが、普段はどこに保管しておけばいいのか。 →自治会員に渡しておいた方がいざという時に利用しやすい。 ・ 大きいサイズで黄色など目立つ色のシールに決定する。シールはドアに貼る。 ・ 被災想定が平日の午前 11 時であるため、隣近所全ての人の安否確認は難しい。	・ 旗に赤色のシールを貼ることで、『無事であること』の意思表示と安否確認の２つを同時に行うことができる。 ・ 軒先に金属製のものが無い家には、マグネットシールを貼り付けることができない。 ・ 災害が起きた際、物品の保管場所を忘れ、安否確認に時間がかかってしまう可能性がある。 →例えば、自治会費を回収する際に物品の保管場所の確認等について話をすれば、災害対応に係る意識の醸成につながるのではないか。
2	『無事である』ことを自ら意思表示する方法	・ タオルをドア付近に縛る ・ 旗を掲示する	・ タオルを軒先に出す。そのためにはタオルを配布した方がいいと思うが、費用もかかるため、タオル以外のものでもドアノブに巻いてあれば、無事であることの意思表示になるのではないか。 ・ 防災訓練の際に安否確認訓練を行い、配布されたタオルやタオル以外のものを軒先に出す共通認識を地域で持つことが大切ではないか。 ・ 安否確認訓練により、自治会員以外にも気づきがあり、訓練や自治会への参加者が増えると良い。 ・ ひばり放送等を活用した継続的な訓練をしたい。	・ 旗はどこかにしまってしまいそう。また掲示する方法が難しい気がする。 ・ タオルの方が利用しやすい。またタオルなら何でもいい。マンションの場合はベランダでもいいのでは。	・ 旗に吸盤をつければ、掲示する際、窓やドアでも貼り付けることができる。
3	安否確認を行う方法（どのような方法で行うのか）	・ ドアをノックする ・ ~~インターフォンを鳴らす~~ ・ ~~電話をかける~~	・ ドアノックで確認する。 ・ 応答が無ければ声かけを行う。 ・ 複数で確認する。 ・ 家具の転倒による被害を防ぐために、タオルとは別に家具転倒防止グッズの配布をしたらどうか。 ・ 事故を未然に防ぐための講習等があるといい。	・ 玄関や裏口のドアをノックする。 ・ ノックしても反応が無い場合は、改めて安否確認を行う。	・ ドアをノックする。また窓から大声を出して確認する。 ・ 高齢者や子どものいる世帯など各世代で日頃からコミュニケーションを取り、隣近所の普段の様子を把握しておくことが大切だと思う。